

米沢市教育振興基本計画検討委員会（第2回）会議録

日時 令和2年1月29日（水）

開会 午後1時00分

閉会 午後3時20分

場所 置賜総合文化センター
教育委員室

1 出席委員

委員長	大木 晃	委員	金子 明夫	委員	菅原 延昭
委員	聖山 宗徳	委員	宇山 栄一	委員	亀岡 淑子
委員	木島 龍朗	委員	小野 弘子	委員	色摩 安紘
委員	中田 秀樹	委員	須藤 輝美		

2 出席教育委員

教育委員	土屋 宏	教育委員	佐藤 晃代
教育委員	我妻 仁	教育委員	渡邊 美智子

3 出席職員

教育長	大河原 真樹	教育管理部長	渡部 洋己
教育指導部長	今崎 浩規	教育総務課長	佐藤 徹
社会教育課長	梅沢 和男	スポーツ課長	佐藤 幸助
文化課長	佐藤 恵一	学校教育課長	山口 まゆみ
教育総務課長補佐	小田 浩昭	教育総務課総務主査	佐藤 真英
教育総務課主査	伊藤 和香子		

4 協議

(1) 教育振興基本計画に掲げる理念及び基本方針に係る意見交換

① 10年、15年先の米沢において、どのような人が育っているようにしたいか。

② そのために何が必要か、どのような取組が必要か。

(2) その他

5 その他

6 閉会

教育総務課長補佐 第2回米沢市教育振興基本計画検討委員会を開催いたします。本日遠藤委員は都合により欠席でございます。なお、本日はオブザーバーとして教育委員の皆様にもご出席をお願いしております。順にご紹介させていただきます。

———教育委員紹介———

教育総務課長補佐 それでは協議に移ります。前回の会議でもご説明いたしましたが、本日は教育振興基本計画に係る理念、基本計画方針について検討委員の皆様から次第に記載してあります2つの観点からご意見を賜りたいと思います。いただいたご意見については、市長、教育委員会で構成します総合教育会議でも協議をし、検討してまいります。それでは、協議につきましては、大木委員長が議長となりますのでよろしくお願いいたします。

委員長 はい。それでは協議に入ります。初めに事務局から資料等の説明をお願いします。

教育総務課長 事前に送付させていただいておりました資料についてご説明させていただきます。資料1をご覧ください。

———資料により説明———

委員長 ありがとうございます。早速、次第の(1)教育振興基本計画に掲げる理念及び基本計画方針に係る意見交換をお願いしたいと思います。教育は人づくりという観点から①の10年、15年先の米沢において、どのような人が育っているようにしたいかという思い、②のそのために何が必要か、どのような取り組みが必要なのか、以上2点について各委員から概ね5分程度でお話しいただきたいと思います。皆様からのご意見をお聞きした後に意見交換の時間を設けさせていただきます。それでは、名簿順にお願いいたします。

委員 本日いただいた案内に教育は人づくりという言葉がございました。私も全くそのとおりだと考えております。私が勤務している学校の教職員には表現は変えておりますが、教育は未来社会をつくっていく、こんなクリエイティブな仕事はないと伝えているところです。さて、10年先、15年先の米沢において、どのような人が育っているようにしたいかということについてですが、私が考えるキーワードは自立と貢献です。現在の本市の大綱にもありますが自立した人ということを考えています。これからの社会がどんなに変化して予測困難になったとしても、自ら課題を見つけて学び、考え、判断して行動できる人というように考えています。もう1つは貢献です。私事で申し訳ありませんが、私が西部小学校で学級担任をしていたときの話を紹介させてください。宿題を忘れてなかなか勉強に身が入らない子どもがおりまして、その子と面談をして話をした後、私はその子どもに対して、自分の将来の夢を実現するために勉強をがんばってほしい。勉強は先生や親のためにするものではなく、自分の成長のためにしてほしいというメッセージを伝えました。しばらくして、その子ども

ものお父さんと偶然会う機会がありました。お父さんは私に向かって勉強について親子で対話したときに、私が子どもになぜ勉強するのかと尋ねたら、うちの子どもは勉強は自分の将来のためにするというふうに答えたとお父さんはおっしゃいました。お父さんはその答えに嘆き、娘に勉強は自分のためにするものではない。自分のためだけにするという考え方は間違っていると教えたそうです。さらに勉強は世の中に貢献できる人になるため、社会の役に立つためにするのだと娘に話したということをお父さんに伝えてくれました。さらに、追い打ちをかけるように勉強を自分のためなどという子どもに育ててしまって申し訳ありませんと、私に謝りました。私は悩んだのですが、心の中で「お父さん、ごめんなさい。」と言いました。そんなことがありました。私は誰かの役に立つ人、人のために尽くす人を育てたいと常々考えています。この考え方は上杉鷹山公の興讓の精神にもつながるものだと考えているところです。具体的に何が重要かということになりますが、中心になるのは学力と人と関わる力と考えます。もう1つプラスするならば、郷土を愛する心というように私も考えます。教育大綱は学校教育のみならず、社会教育、家庭教育、文化体育面と多くの領域を網羅する必要があるかなと考えています。いただいた資料で山形市の大綱に山形らしさとありましたが、何が山形市らしさなのかということは伝わってこないという感じを受けたところです。ですから本市の教育大綱、そして教育振興基本計画については、教育に携わるみんなが、ひいては米沢市民が共有できるものでありたいと考えます。みんなが共有できるものにするには、上杉謙信、上杉鷹山、愛と義、興讓の精神、そういったものが根底に流れる計画にできればいいのかなと考えているところです。以上でございます。

委員

教育は人づくりというのですが、それを掘り下げていくと徳に尽きるのではないかと思います。道徳性を養っていくことから始まっていくのではないかと思います。学校基本法及び教育基本法に定められている教育の根本精神で道徳教育とは自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とするとあります。そこがないといくら教育をしても難しいのではないかと思います。最近、道徳教育の時間が見直されておりますが、なぜなくなったのかと疑問に思っています。教育は学校だけでなく、家庭教育が基本になるところなのですが、家庭教育をできる時間がありません。朝から夜まで1日の90パーセントを幼稚園、保育園で過ごし、家庭に帰ると早くご飯を食べろ、早くお風呂に入れ、早く寝ろ。次の日は、早く起きろ、早くご飯食べろ、早く幼稚園に行くぞ。こんな状態で家庭教育あるいはしつけが十分達成されていない現状であります。幼稚園、保育園で家庭教育のしつけの部分をさらに担っていかなければならない時代に来ていると感じております。曹洞宗で出している日常の五心

というポスターがあります。5つの心、道徳につながっていく部分なんですけれども、「すみません」という反省の心、「はい」という素直な心、「おかげさま」という謙虚な心、「私がします」という奉仕の心、「ありがとう」という感謝の心。この5つの心を日常に掲げて生きていきなさいよということです。ここが一番大事だと思います。今の子ども達、大人もですが、そういう心が身に付いているのかなと思っています。道徳の時間をもっと取り入れて、家庭教育で足りないところを幼稚園時代から学校教育のところで補っていかなければいけないと思っています。それが人づくりにつながっていくということを含めて教育基本計画をつくっていければいいと考えたところです。

委員

教育は人づくりということで非常に良い言葉だと思います。①の10年、15年先の米沢において、どのような人が育っているようにしたいかということですが、私は一人一人が自信を持ち、他者と協力しながら生涯学び続ける人になってほしいという願いを持っています。保育園も幼稚園さんもそうなんです、保育園は朝7時15分から夜7時15分まで12時間、子ども達は園にいることになります。そして休日保育を行っていますので、1週間保育園に行きっぱなしという子どもさんもいるのが現状でございます。1日の大半を保育園で過ごすことになりますので、保育園として子どもと保育者で信頼関係を結びながら保育、養護を通じながら教育の部分に携わっていかなければいけない状態です。出生数は激減しております、昭和55年の米沢市の出生数が1,153人で平成27年度は529人で半分以下になっています。そうした中で世帯数が増えているのが米沢市の現状です。一人っ子、一人親世帯の増加、スマホとSNSの普及によって子どものコミュニケーション力が著しく低下してしまっています。保育園でも自分の感情をコントロールできずに手をあげてしまったり、人への思いやりの欠如ということが出てきたかなと思っています。一人一人が自分に自信を持って他者に協力して認め合っていく、他者への気持ちに寄り添う優しい子ども達が必要なかなと思います。そのためには何が必要かということですが、一人一人が自信を持つということは、一人一人の価値観の違いを理解し、尊重できる人格を形成しなければならないと思っています。そのためにも教育は単なる知識の埋め込みだけでなく、学びを通して本来人として歩ける姿を形成していくものではないかと考えています。他者を理解する環境があることが大切ですので、それには自分の気持ちや他者の気持ちにまず気づくこと、そういう部分が幼少期から育ってほしいと考えます。そのために具体的に何をすればいいのかと考えますと、絵本の読み聞かせや読書習慣を通して情緒的な部分を学んでいくことで情緒を豊かにしてほしいという思いがあります。社会、文化、スポーツを通して人とのふれあいの中で感情豊かにするというのもあると思いますが、まずは幼少期から読み聞かせをすること

によって気づき、他者への思いやりを持ちながら自分に自信を持って、一生学び続ける人になってほしいと願いを込めたいと思います。私は中学生のとき柔道部の一人として学んだのですが、当時、私の代は私一人しかおりませんでしたので非常に辛い柔道体験でした。先輩、後輩、先生とも学びながら柔道って楽しいなと思いました。そのおかげで高校、大学、社会人になっても柔道を辞めずに、今でも米沢地区柔道連盟の理事として子ども達に柔道を教えています。その教えた子どもが社会人となって帰って来て、一緒に柔道を教えている姿を見て、本当にうれしく思っております。持続可能な人の輪のつくりを根底に教育大綱をつくっていただきたいと思います。

委員

人口減少時代ということが大きな課題となって、その中で持続可能な社会をつくるにはどうしたらいいのかということが様々なところで論議されています。多様化、複雑化する課題、急速に変化する社会にどう対応するかということがこれから益々重要になってくると思います。その中で米沢市の人口について、平成29年に出された適正規模・適正配置のパブリックコメント用の児童生徒の推移を見てみますと、29年度から7年間で小学生が670名、中学生が230名減少することが示されています。このことから10年後、15年後にはさらに米沢市の人口は減少するものと想像できました。そういうことを考えたときに、これから米沢ではどういう人材を育成していかなければならないのかという大きな命題をいただきましたので、私なりに考えてみました。将来の夢や希望の実現に向けて絶えず自らを磨き、新たな自分づくりに向けて努力できる人を育てることが重要ではないかと思いました。そういう人を育てるために学校教育ではとなると、学ぶ心、豊かな心、健やかな体を育む環境が大切になると思います。知的好奇心を伸ばす学びは、学ぶ楽しさを体感させ、学ぶ意欲につながるものと考えています。本物の持つ楽しさ、奥深さに触れるということは将来の生き方に大きな影響を与えるものと思います。米沢には3つの大学がありますが、米沢で学ぶ子ども達が、将来、米沢の大学で学びたいという夢が持てるような小中高大の連携ができればいいと思います。少子高齢化が進み、いじめや虐待が社会問題になっております。そのために、これからは人権尊重の精神を養い、人権意識を高めることが不可欠になるものと考えます。人権尊重は誰もが生涯にわたり楽しく生きるという権利を表しております。人権尊重の考えが浸透すれば子どもや大人を問わず、思いやりの心が生まれ、国際化が進む社会でも豊かな人間形成につながるものと考えます。また、表現力を磨くことも重要だと考えます。様々な表現活動を通して得られる感動は表現力を高めるだけでなく、自己肯定感や自己有用感を高めることにつながるものになると思います。市内の中学校では合唱は我校の宝として重要な学習活動に位置付けています。表現活動はつくること、見ること、聞くことで互いに高め合

うことができるものです。この宝である合唱を発表し合うような機会があってもいいのではないかと思います。社会教育に関しては、平成30年12月に中央教育審議会から人口減少の新しい時代づくりに向けた社会教育の振興方策について答申が出されております。その中で社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりのあり方が示されております。社会教育は社会と関わりつながる教育といわれております。そのために学びの輪づくりが大切になると思います。大人の学びは知的欲求の充足や自己実現に結び付く内発的動機付けによるものであり、生活に即座に活用されるものかと思っております。今、学び直しやリカレント教育が様々なところで行われています。現在、米沢市でも鷹山大学や各コミュニティセンターで様々な講座が開設されております。さらに気軽に講座を開設できるような支援をしていただければと思っております。また、人生100年時代の到来といわれておりますが、そのことを考えると単に健康教室を開くだけでなく、生涯、学び続け、輝き続けるための活躍の場を設定することも大事だと思っております。健康長寿のまちづくりを目指す米沢市にとっては老若男女を問わない生涯スポーツの普及は欠かせない事業になると思います。次に、地域づくりを促進するためには、これからの地域の担い手になる中学生、高校生、大学生の参画が必要だと考えます。自由な発想を出し合い地域づくりに向けて企画立案し、活動するようなプロジェクトを立ち上げることは地域づくりを活性化させる一助になるものと思っております。また、限られた人材、物的資源を活用するためには社会教育だけでなく、福祉や観光など、様々な部局とのネットワークを整備して社会教育行政を行うことが重要であると思っております。それから、私は防災意識を高めることも必要だと思っております。東日本大震災や様々な自然災害の教訓を風化させない取組が必要だと思っております。ハザードマップの作成や避難所の運営など、緊急時の準備などをしていただいているものと思っておりますが、釜石の奇跡といわれるように普段からの取組が大事だと思っております。地域と学校が一体となった防災や安全対策を考えることも必要だと思っております。このような取組を通して培われた力は社会に出たときにも自分を磨き続ける源となり、自らの生き方を探る力になるのではないかと思います。どんなにテクノロジーが発達しても人間らしく、人として何ができるかを考え、取組むことができるような人がこれから益々重要になると思います。

委員

学校教育としての米沢市の課題に、子ども達の活用する力が弱いということがありましたので、生きて働く確かな学力、それから自己肯定、他者を認める豊かな人間性、健やかな体を持ち、郷土を愛し、未来を切り開く気概に満ちたがってしない子どもを育てていきたいと思っております。がってしないという言葉は米沢の郷土の中で望ましい子どもの姿を現していると思っておりますし、どちらかというとき非常に精神的にもひ弱な子どもが育っていると感じますので大事なことで

はないかと思います。そのためにはどんなことが必要になるのかと考えたときに、一人一人の子どもに応じた活用力を養う、細やかな教育の推進のための事業と教育環境の整備が必要になってくると思います。東部小学校の評議員をさせていただいておりますが、学校で先生方のいろいろな研究の様子を見せていただくと非常に子どもに寄り添っており、どうすれば子ども達が理解できるかという研修を多くなさっているんです。これは素晴らしいと思っていますし、素晴らしい先生方がたくさんいらっしゃると思っています。小学校の英語教育についてですが、初めは子どもが楽しみながら学び、国際社会に通用するような力を養っていくということだとお聞きしていたのですが、いつの間にか教科書が出て教科になって、教科になれば評価も必要になってくる。評価が必要になれば評価するための資料が必要になります。特に小学校の先生方にとっては非常に大変なことだと思います。そういう意味では教育現場が混乱しないように教育環境を整えていってほしいものだと思います。自己肯定と規範意識、他者への思いやりを養うための道徳教育についてですが、米沢市の道徳教育は歴史があります。他のところでそういう取組をしないうちから鷹山公や先人の偉業や精神を含めた副読本をつくり活用していました。その辺はこれからも大事にしていってほしいと考えているところです。それから、スポ少、部活動の縦のつながりはあっても横のつながりが少ないという現状があるということです。子ども達のことを考えると社会体育の中での縦のつながり、横のつながり、学校体育とのつながりは絶対に必要だと思います。また、コミセンの子ども向けの講座は子ども達が参加しやすいようにスポ少や習いものと重ならないように日程をつくっています。これからも子ども達が参加しやすいように工夫していきたいと思っています。

委員

私は研究室を持っており大学生、大学院生の教育をしていますが、研究室のモットーがあります。手足を動かし、自分で考え、学ぶ、行動するということなんですけれど、どういうことかということと大学生は指示待ち人間が非常に多いです。指示をすればやりますし、それなりにこなしますが、自分で考えることはありません。後から何でこれやらなかったんだと聞くと、言われなかったからと平気で言います。これは幼児教育、児童教育に関係があるのかも知れません。大学は最後の教育機関です。その後みんな就職します。最近でこそ県内出身者が半分ぐらいまで増えたんですが、卒業後はほとんどが自分の地元に戻る、若しくは県内出身者ですら仕事のあるところに行ってしまう。ですから、10年、15年後にどうなっているか、個人的には戻ってきてもらいたい、地元で就職してもらいたいと思っています。日本全体と社会の教育を考えると、自分で考えて行動できるような人間を育てたいというのがモットーですし、これは学校教育、社会教育に限らず、この方針は間違っていないかなと思っています。

ります。モバイルキッズケミラボをやっていると米沢興譲館の高校生は指導という立場で、我々が教育という形にしているんですが、雑談の中で見ていると米沢から出たいという生徒がほとんどです。ほとんどが世界に羽ばたきたいと思っている。それは素晴らしいことですし、がんばってほしいと思いますが、15年後に戻って来てもらえるような魅力のあるまちになってほしいな、そういう人間に育ってもらいたいなという思いはあります。子ども達と化学実験を行います、原理は教えません。なぜなら原理を教えると誘導することになりますし、賢くなったような気はするかも知れませんが、興味がそこから先に進まないんです。原理は教えず、経験やチャンスを与えればいいのかと思っています。チャンスを与えることを私は強く推していきたいと思います。せっかくチャンスがあっても目標がないと自分の意識だけで物事を進めるのは難しいと思います。米沢の生涯学習フェスティバルが1年間の成果をみる1つの目標だったりするんです。そういう目標をつくってあげることが非常に大事なことだと思っています。ノーベル平和賞を受賞したときのマララさんのお父さんへインタビューが、どのような教育をされたのですかと聞いたんです。お父さんは、私は彼女の翼をもがなかっただけですと言ったんです。邪魔をしなかった、チャンスを与えたんだと。チャンスを与えるということはそういうことなんだと思います。私が申し上げたいのはこの2点です。それをぜひ盛り込んでもらえたらと思っています。以上です。

委員

今、米沢市ではがってしない子どもづくりを大きな目標として困難にくじけないタフな人材を育てようと考えていらっしゃると思います。私はちょっと違う意見なんです、あまりにもタフなイメージが付いてしまっているのではないかなと思うんです。例えば、すごく傷つきやすい子なんかは、ちょっと弱めだなと思われがちですが、実は反対に物すごく繊細な感受性を持っていたり、敏感に感じたりする力を持っていたりするんです。そういう子は芸術面で素晴らしい力を発揮したりします。そういうことを考えると、金子みすゞのみんなちがって、みんないい。という、そのままでいいよというふうに言ってもらったほうがそれぞれの力を安心して出せるのではないかと思います。自分は変わらなくてもいいんだな、自分はこれを持っているんだな、というようなところを学校側も見て、伸ばしてあげたら、その子は楽になって力を発揮できるようになるのではないかと思います。それぞれの多様性を認めることが必要だと思います。10年、15年先の米沢において、どのような人が育っているようにしたいかということですが、社会人基礎力という言葉がよく取り上げられて、これからの社会では3つの力が必要だと言われています。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」です。「前に踏み出す力」というのは、失敗しても粘り強く取組み行動していくこと。「考え抜く力」は疑問を持った

り、分析したり、課題を明らかにしていく力、「チームで働く力」というのは意見の違いや、立場の違いを尊重していこうということです。そういうような人材が今求められていると言われていています。そのために何が重要かというところ、たくさんの体験を積むことが大事なのではないかと思います。自分で考えてやってみて、その成果を知るといった経験の積み重ねが、そのときには見えなくても大人になってから大きな力となっていくということもあると思います。ですので、そのような場面を意識して学校でたくさんつくっていただけて発信力のある生徒さんが育っていったらと思います。それから先程、社会教育のこと、大人の学びのことについて、お話がありました。私も全く同感です。年配の方がたくさんいろいろな活動をしたいという気持ちを持っていらっしゃるし、実際に様々な講座に入って活動していらっしゃいます。医療が進んで最期まで家族に迷惑をかけないで自分で元気でいたい、輝いていたいという気持ちの表れが強くなってきたのかなと思います。そのためにも学ぶ機会、知的な好奇心を満たしてくれる場がたくさんあればいいのかなと思うんですけども、一番残念なことは地方に住んでいると講座はいっぱいあるんですが、都会と違って、超一流の演奏に触れたり、超一流の人に学ぶ機会がないということです。中央から人を呼んで来て講座を開く機会を持っていただけたらいいと思います。以上です。ありがとうございました。

委員

まず、米沢市が裕福であることが大事です。何を話してもお金がなければできない。米沢の場合、今年はこのように天気で雪がありませんが、これまで冬の間に何をしてきたのか、どういうことをしてきたんだと思います。もっと他のところにも誇れることをすべきだと思います。すごいと思う雪国は、新潟県の妙高と秋田の鹿角です。そこはどのくらい雪が降っても夏冬変わらないくらい賑やかです。いろいろな大会もあります。そういうふうな米沢にできないものかなと、ずっと思っています。次代は裕福な状態であってほしいと思っています。そういう状態であれば、委員の皆さんからお話のあったことが実現可能なものになっていくと思います。もう1つは人として家庭という組織の中で感激したことをお話しします。ある家庭で急に親戚に不幸が出たために、朝、生徒が学校に来るときに弁当を持たせられなかったということがあったときに、タクシーに弁当を乗せて届けたということがありました。これは素晴らしいことだと思って機会があれば皆さんに紹介しています。こういう家庭があれば絶対に米沢市は素晴らしくなると思います。以上です。

委員

教育は人づくりというところの観点の人づくりというところを、教育は先生づくりという視点で考えてきました。一番教育の原点のところの落とし込んでいるところでの考えをお話しします。家庭での教育が大事だということはもちろんですが、会社においても経営は人、物、お金、情報、そして一番大事なものは時

間だと思っています。学校の経営にもこれは当てはまるのではないかと考えております。10年、15年先の米沢において、どのような人が育っているようにしたいか。人のところを先生に置き代えた場合、先生というのは生徒の力を何とかして伸ばしてやろうという意欲のある先生。いろんな生徒がいるので、いろんな生徒にしっかり膝を突き合わせて、その目線で指導できる先生。どんな生徒ともがっぷり四つに組んで逃げない先生。少しの失敗にもめげないで元気に指導に当たる先生。知恵を出して工夫して指導に当たる先生。子どもの言い訳にもしっかり耳を傾けて、子どもと共に歩む先生。このように意欲と活力に満ちた先生像が10年、15年先に育ってほしいと思ったところです。これを実現するには何が重要かというところで、私はコミュニケーション能力が足りないのではないかと考えています。コーチングのスキルアップの取り組みということで私も会社でやっていますが、人とのコミュニケーションをうまく図れる人材育成が大切だと思っています。学校教育の面からお話しますと、生徒は信頼している先生の話聞くということがあります。逆に信頼していない先生の話は耳を傾けないようにしています。信頼のおける先生の話は共感しながら話を聞き、まるで砂に水が浸み込むように頭に入ってきます。そのとき勉強が身に付いたという感じが受け取られます。逆に信頼していない先生の話は音として耳には入りますが、まるで雑音と同じで何の意味も持ちません。このようなとき教育の効果は出ているのでしょうか。意欲と活気に満ちた先生は少々物やお金の面で不足があるにしても、逆境場にして智慧と努力でそれらを克服していく。ここに教育は人、先生というところの所以があるのかなと思っています。社会教育の面では地域との関わりがかなり希薄になっています。人と人のつながりがなくなっていく感じが出ておりますので、この辺をしっかり教育指導できる先生方の指導をしてほしいと思っています。仕事の上でも、家庭で子どもに教育をする上でも、全てにおいて大事なことは諦めてはいけないということ。最後まで諦めない子どもを増やすようにしてほしいと思います。先生には一体感と継続という目標を持って子ども達と一緒に進んでほしいと思っています。以上です。

委員

私は自分が住んでいる山上地区を考えたときに思っていることをお話させていただきます。10年、15年先の米沢において、どのような人が育っているようにしたいかということについては、単純に米沢の自然や歴史、食文化、方言などの言葉を含めて米沢が本当に大好きだという人が増えていたらいいなと思います。実際に山上地区が大好きでいろいろなことを知識として持っていらっしゃる経験もある方がおられて、そういう方を講師にした講座などを開いて一緒に学ばせていただいたりしています。私は地域の先生と思っているのですが、そういう方たちを見つけ出して、その人たちに地域のことをいろいろ教

えていただいて、いろんな体験をして大人も子どもも自分の住む地域が好きだという地元愛の心を育てていけたら米沢を1度離れたとしても、その頃の経験とか思い出というもので米沢に戻ってきたいという子ども達が増えていくことを期待したいと思っています。山上地区では来年度で小学校がなくなることになっています。危機的というか、寂しさや大変なことなんだとこの頃実感しています。今まで小学校と一緒にやってきたことが、これからはできなくなります。運動会、敬老会等はどうなっていくのかということ地域で話し合っていますが、学校の統合で山上地区のような状態になる地区がこれから出てきますので、そういったときに地域の伝承文化や伝統行事をなくさないで継続していけるような取組を考えてほしいと思いますし、自分ができることは協力したいと思っています。米沢が大好きな人たちが増えてほしいという今の私の気持ちをお話させていただきました。

委員長

ありがとうございました。各委員からのご意見をお聞きして、皆様の思いが大変詰まったお話だと感じたところです。お互いにご意見を出された中で感じになられたことなどを出していただき意見交換をしたいと思っています。ご意見を賜りたいと思いますがいかがでしょうか。私も中学生に君たちにはぜひ自立と貢献という、人のために尽くせる人になってほしいという話をしました。赤ちゃんから始まって小学校でいろいろなことが自分でできるようになって、自分はできると思っている子どもでも本当はみんなにいろいろなことをしてもらっているから生きていけるんだ。農家でもないのにご飯が食べられたり、服もつくってもらい、道具もつくってもらい手に入れている、増しておうちの人に買ってもらっている。そういうことから人のために尽くせる人になってほしい、人を支える人になって初めて大人なんだ。それが自立なんだということを訴えました。また、一番初めはあいさつをしよう。自分で声を出すことはとても勇気があるんだけど、それがスタートだろうと話しました。PTAの方々にもあいさつ運動に取り組んでいただいております。地域の方に来ていただいたり、農業体験で地域に出て行ったり、いろいろな場面で地域の方にお世話になっているので人と人のつながりが一番大事だと思っているところです。子ども達には米沢の歴史や文化、災害を含めた自然、郷土の産業、鷹山公の言葉、開拓団のことなど米沢の良いところをたくさん教えてあげたいと思っています。委員の皆様からご意見ございませんか。では、意見交換を終わらせていただきます。本日いただいたご意見は市長と教育委員会による総合教育会議でも協議していくということです。また、今後、教育振興基本計画の施策を検討していく上でも今回のご意見を活用させていただきたいと思っています。その他ということでも事務局から何かございますか。なければこれで協議を終了します。ありがとうございました。

教育総務課長補佐 どうもありがとうございました。次回の会議の日程について、ご連絡させていただきます。今後、市長と教育委員会で構成します総合教育会議において理念と基本方針を中身とする教育大綱を3月下旬に策定する予定でございます。また、ワーキンググループ会議におきましても各現場における課題等を整理して、次回会議を4月に開催したいと考えております。別途、担当から日程のご連絡をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。以上を持ちまして、第2回検討委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。